



▲第2音戸大橋が建設される音戸の瀬戸

## Q 第2音戸大橋の早期完成を

野崎 剛睦 議員

### A 建設促進を強力に働きかける

市長

Q 慢性的に生じている交通渋滞の解消のために、第2音戸大橋の早期完成は、全市民が期待している。

A 江田島市の地域発展のためにも、呉市と連携をとり、中国地方建設局等関係機関に建設促進を今後ともより強力に働きかける。

Q 飛渡瀬小学校は、平成18年度には3・4年生は複式学級となるが、解消措置を要請する。

A 市教育委員会は、解消すべく県費教諭の加配を県に願う。

Q 県道44号江田島大柵線は交通量が多く、中高生自らの自転車通学の安全対策のために、歩道(自転車共用)の設置を。

A 市民の安全確保のために、ぜひとも必要であり、交通安全施設等整備事業によって、整備促進を県に要望している。

## Q 受診率低下の健康診断

山根 啓志 議員

### A 選択制度の導入を検討

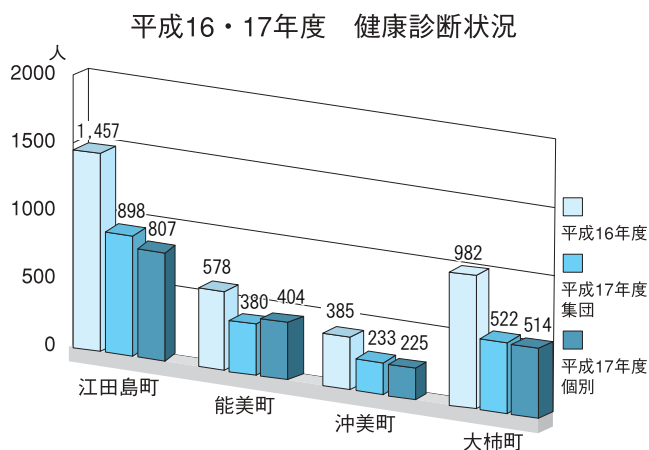
市長

Q 今回の江田島市健康診断は、実施方法が大幅に変更され、受診率の低下を懸念していた。十分な検討・調査期間を置かず、受診しにくい状況に変更したのはなぜか。旧4町で実施方法に差異があり、適正か

つ効率的に実施するため統一。集団健診の欠点である長時間の拘束を避け、個別健診を取り入れた。受診率は、前年比60%と低く、来年度は、全項目健診が受けられる集団健診、受診日を選べる個別健診を選択できるように検討している。

Q 遠地における緊急・救急サービスの均衡化について、赤バイの導入の進行状況は。赤バイの機動性は、現場到着時間の短縮につながり、救命率の向上、火災等の損害の軽減

につなぐと考えると、現在、日本消防協会に寄贈の手続き中で、決定通知は年明けとなる。



## Q イノシシ被害対策を

林 久光 議員

### A 農家・関係機関で役割分担

市長



▲箱ワナにより直接捕獲されたイノシシ(能美町高田)

Q イノシシ被害は、依然増え続けている。緊急課題として即効性のある思い切った対策が急がれるが。

A 市内の振興地域内の農地の半分以上が耕作を放棄され、農地の荒廃が被害の増大に拍車を

かけている。本市としては、ワナ等による直接捕獲と防護柵設置、さらに中山間地域直接支払制度の導入等を促進することが必要。

今後、農家及び関係機関で役割を分担しながら、より良い行政のかかわり

Q 団塊世代対策について、本市への永住及び定住促進を図るために、高齢化・過疎化に対応した諸施策の推進や市内の環境整備が必要である。パソコン講座やIT化

への支援、定年退職者の企業での指導支援のほか、農漁業体験を含めた都市との交流拡大を図る。

## Q 市営交通船の運営状況は

登地 靖徳 議員

### A 17年度1億1800万円の赤字見込み

市長

Q 市営交通船の経営内容容は

Q 市営交通船の将来計画は。

Q 市債(借入金)は、210億円あり、税収等の自主財源の確保、地方交付税の総額の確保が困難となり、事業等の抜本的な対策が必要。

Q 重要課題は何か。

Q 自主自立の市づくりを推進し、取り組んでおります。



▲厳しい経営状況が続く市営交通船